



奥山大使のバカア・パレスチナ難民キャンプの UNRWA 学校と保健センターを視察

2023年3月21日、奥山大使は、バカア（Baq'a）パレスチナ難民キャンプにある国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）の学校と保健センターを訪問しました。訪問に際し、ベッカーUNRWAヨルダン事務所長代行とパレスチナ難民の状況について説明を受けるとともに、バカア・パレスチナ難民キャンプ内の学校の生徒代表と交流しました。また、UNRWAの保健センターやシリアからのパレスチナ難民のシェルターを訪問し、生活状況を把握するとともに日本政府の支援について確認しました。

日本政府は、1953年からUNRWAを支援しており、今年でパートナーシップ70周年となります。2022年には、総額で3,020万米ドルを拠出しており、同機関における第6番目のドナーでした。2023年3月現在、日本政府はUNRWAの危機的な財政ニーズを考慮し、令和4年度補正予算（第2号）として3,320万米ドルを拠出しており、この拠出金は、シリア、レバノン、ヨルダン、パレスチナに対するUNRWAの緊急アピールを支援するものです。この拠出には、ヨルダンにおけるパレスチナ難民の食糧・保健・教育分野を通じた人間の安全保障の強化を支援するため、500万米ドルが割り当てられています。

さらに、日本政府は、令和4年度緊急無償資金協力の枠組みにおいて、UNRWAへの支援を拡大して550万米ドルの支援を行っており、500万米ドルは、ガザとシリアのパレスチナ難民のためのグローバルな食糧安全保障への対応に向けた支援として活用され、その他50万米ドルはトルコ及びシリアにおける地震被害に対する支援として活用される予定です。



UNRWA 学校



UNRWA 保健センター



バカア難民キャンプ



日本の支援